

“子育て支援”を基盤に、地域住民と4学科の学生・教員が交流する場を創る
子育て支援カフェ「おやこ de-Aino かふえ」オープン！
試験的開催の結果と今後の展開

塚越 千尋¹、古澤 朗子²、阿部 宏史²、宮岡 裕香²、阪上 奈巳³、畑中 由佳⁴

藍野大学 ¹作業療法学科、²看護学科、³理学療法学科、⁴臨床工学科

報告概要 「いきいき子育てサロン」に参加してきた太田地区に住む0～3歳の未就園児とその親同士のゆるやかなつながりを作るため、太田地区のボランティアと藍野大学の教員が、学生をまき込んで、藍野大学 MLC 棟で子育て支援カフェを開催した。3カ月の試験的開催において延べ参加人数は46人（うち学生20人）であった。「おやこ de-Aino かふえ」を横糸、「いきいき子育てサロン」を縦糸として、今後も地域課題への取り組みに大学教員・学生が関わっていく活動を継続したい。

1. 子育て支援カフェ開催の経緯

藍野大学では、茨木市社会福祉協議会（以下、社協）・太田地区福祉委員との共催により「いきいき子育てサロン」を年に3～4回の頻度で開催してきた。「子育てサロン」とは、0～3歳の未就園児とその親が地域の中で活動を通じて子育てを楽しみながら仲間を作り、互いに支え合う場である¹⁾。地区によって特徴があり、太田地区では、藍野大学に子どもと親、地域ボランティア、大学教員・学生が集い、子どもと一緒に遊んだり、大学教員の講話を聴くことができる機会を作ってきた。以前より協力してくれていたコミュニティソーシャルワーカー（以下、CSW）が、「他の地区は活動を重ねるごとに参加者が増えていくけれど、ここは横ばいか減る傾向。ママ同士のつながりが希薄なのが課題」と教えてくれた。そこで、「子育てサロン」ほど構成的ではなく、親・子ども同士がゆるやかにつながる場を作る目的で、子育て支援カフェの開催を提案した。

2. プロジェクト目的

「子育て世代を孤立させない」という太田地区の福祉・民生委員が大切にしてきた想いであり、まちづくりの課題に対して、「子育てサロン」よりも定期的に親・子どもが集い、肩の力を抜いてゆるやかなつながりを作ることができる場として、月1回の頻度で子育て支援カフェを開催することとした。

3. 実施方法

2024年1～3月の第3木曜、11:00～13:30に藍野大学 MLC 棟2階カフェ跡地で実施。事前に、CSW、社協、太田地区の地域ボランティアにチラシを配布してもらい、オムツ交換台・ミルクのお湯・電子レンジを用意してあること、身長体重計測・手作りクラフト・親子遊びができることを地域に周知した。また、ポスターの貼付、広報課から大学HPに記事を挙げてもらい学内に共有した。地域ボランティアと藍野大学教員の役割は、設置・誘導・遊び・談話・学生の見守り・片づけ・アンケート実施であった。

4. 結果・今後の展望

3回の開催における延べ参加人数は46人であった（表1）。

表1 参加人数

	1月	2月	3月	合計
親・子ども(名)	6	6	14	26
学生(名)	0	8	12	20

アンケート結果より以下のことがわかった。知ったきっかけは、地域の掲示板で知った、ちらしを見て等であった。参加した目的は、以前子育てサロンに来たことがあったので気になった、クラフト遊び等であった。感想には、定期的に開催してほしい、優しい雰囲気、子どもがほめてもらえてうれしそう等があった。今後、参加者からの「子育てにこんな情報が欲しい」という希望に応じて「子育てサロン」を企画するというように、カフェとサロンを連動していきたいと考えている。



図1 「おやこ de-Aino かふえ」のスタッフ集合写真

謝辞 子育てサークル「ほっこりスクエア」をはじめ地域ボランティアの皆さまに感謝いたします。

参考文献

[1]茨木市 HP「子ども育成部>子育て支援課>イベント情報>子育てサロン」(2024年2月2日閲覧)